

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①中里桃子著『自分の居場所をつくる働き方』日本能率協会マネジメントセンター (2020年2月刊, 189p, 四六判)</p> <p>「働き方改革や副業解禁などよく聞くけれど、何をしたらいいのかよくわからない」「このまま同じ会社にいる先が見えていないが、自分には起業できるようなスキルがない」——以前の著者は毎日こう感じていた。20代には1~2年ごとに転職を繰り返し、34歳で起業するまで7社を経験。資格取得や語学に挑戦したが専門性は身につけられなかった。そんな著者が見つけたこれからの時代の働き方が「コミュニティ・ワーカー」。限られたポストを誰かから奪うのではなく、自分らしく働きながら、仲間とともに成果を出せる「居場所」を自分でつくり出していく働き方だ。本書では、会社員でも個人事業主でもない「第3の道」ともいわれるこの新しい働き方を平易に解説する。</p>	<p>③山田久著『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社 (2020年2月刊, 271p, 四六判)</p> <p>労働問題に詳しい専門家である著者は「日本は『高賃金国』だということの常識は、いまや非常識になりつつある」と警告する。日本の製造業の賃金はドイツと比べて4割以上も低く、肩を並べつつあるアジア各国も、業種によってはいまや日本より高いケースもある。著者は「低賃金による低価格戦略はもはや限界」とし、付加価値創造経営への転換を促す雇用賃金システムの導入が不可避との見方を提示。今後は賃上げを軸にした社会経済モデルの国スウェーデンにならった社会経済を構築するのも一案だと主張する。日本が社会保障制度の維持と財政危機の回避ができるよう、賃上げを促す政府の第三者機関の設置を提唱。豊かな社会を目指し、「生涯賃金3割増」を示唆した。</p>
<p>②石田浩ほか編著『人生の歩みを追跡する』勁草書房 (2020年1月刊, viii+282p, A5判)</p> <p>東京大学社会科学研究所は「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」と題する調査で若年者、壮年者を対象に10年以上の人生の軌跡を追跡調査した。本書はそのうちの「就業・キャリア・貧困」「生活・健康」「家族」「社会・政治に対する意識・態度」の4つの問題を追究。「就業・キャリア・貧困」では現在の日本社会で所得が上昇している就業者がどの程度いるのか、所得の高低の違いは何が関係しているのかを分析する。一方で貧困状態に注目し、どのように貧困に陥り、抜け出すのかを解明する。「家族」では職場のワークライフバランスとパートナーとの関係を調べ、男性の帰宅時間について「午後7時まで帰宅」できる割合がややプラスだったことがわかった。</p>	<p>④堀内都喜子著『フィンランド人はなぜ午後4時に仕事が終わるのか』ポプラ社 (2020年1月刊, 224p, 新書判)</p> <p>有休消化100%、夏には1カ月以上の休暇を取得、週に1回以上在宅勤務する人は3割以上、残業ゼロで16時にはみんな足早に帰宅——フィンランドの大使館に勤務する著者はこうした働き方の背景に「オンとオフの切り替えをはっきりさせ、休みは生産性向上のために必要と全員が考える」ことが関わっているとみる。また平等でオープンな職場の人間関係も影響しているという。同国は2018、2019年と2年連続で国連発表の幸福度ランキングで世界1位となった。しかし、今後は少子高齢化、高失業率、グローバル化など急速な社会の変化への対応という課題も。専門家は将来の働き方に関し、就労時間や働き方、労働条件が各個人によりかなり異なると予測する。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2020年3月-4月労働図書館受け入れ)

⑤トマ・ピクティ編『不平等と再分配の経済学』明石書店(225頁, 四六判)	⑩下村英雄著『社会正義のキャリア支援』図書文化社(342頁, B6判)
⑥諸富徹著『資本主義の新しい形』岩波書店(xviii+251頁, B6判)	⑪田中翼著『働くコンパスを手に入れる』晶文社(225頁, B6判)
⑦酒井正著『日本のセーフティネット格差』慶應義塾大学出版会(xviii+331頁, 四六判)	⑫東京弁護士会法曹大合同会編著『ハラスメント事件の弁護士実務』第一法規(x+329, A5判)
⑧東京弁護士会労働法制特別委員会編著『新労働事件実務マニュアル』ぎょうせい(xvii+648頁, B5判)	⑬村田晶子著『外国人労働者の循環労働と文化の仲介』明石書店(194頁, A5判)
⑨渡邊正裕著『10年後に食べる仕事 食べない仕事』東洋経済新報社(334頁, A5判)	⑭岩波書店編集部編『私にとっての介護』岩波書店(xi+194頁, B6判)

労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書125,842冊、洋書32,810冊、和洋の製本雑誌27,114冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(244種)、洋雑誌(139種)、紀要(502種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています



※現在、新型コロナウイルス流行の影響で臨時閉館している場合があります。開館情報はHPでご確認下さい。